

東京海洋大学

「創発的海洋研究・産業人材育成支援プロジェクト」

令和8年度(2026年度)春季採用学生募集要項

1. 本プロジェクトの目的

「創発的海洋研究・産業人材育成支援プロジェクト」(以下「本プロジェクト」という。)は、将来の我が国の科学技術・イノベーションの基盤となり、社会課題の解決に資する研究を担う博士人材を育成することを目的として、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が実施する「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に基づき、本学において、本学博士後期課程学生に対して、研究奨励費(留学生は2026年度のみ)及び研究費の支給及び必要な支援プログラム等の組織横断的な構築を行うことにより、研究に専念できる環境を提供し、新海洋産業の創出を志向し、海洋社会の課題解決や社会変革に資する研究を遂行する、「創発的海洋研究・産業人材」を育成することを目的とします。

2. 本プロジェクトの概要

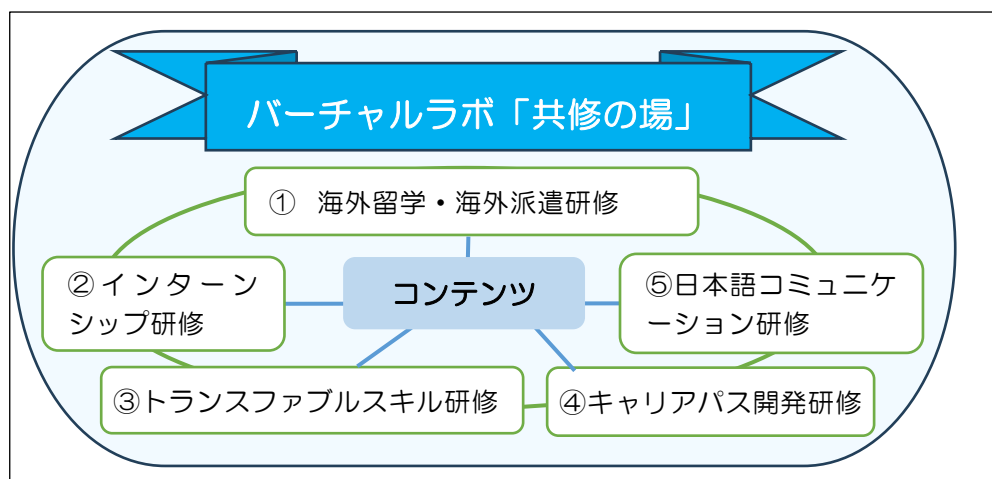
「創発的海洋研究・産業人材」の育成のため、社会的課題の解決を志向し、海洋版社会 DX に貢献する意欲が高い学生等を選抜により決定し、採用された学生に対し、以下の経済的支援及び修学支援を提供します。

(1) 経済的支援

- ① 研究奨励費として年間 240 万円の生活費相当額(留学生は2026年度のみ)及び研究費として研究内容等を勘案し一定額を別途支給

(2) 修学支援

- ① 専門分野を超えて議論し学び合う「創発」を促すプラットフォーム、バーチャルラボ「共修の場」に所属
- ② 異分野交流によるシナジー効果を促す5つのキャリア開発・育成コンテンツを履修
- ③ 学生毎に指導教員とは異分野の優れた教育研究実績を有するメンター教員を配置



3. 申請要件

本プロジェクトに申請できる者は、次の①及び②の要件を全て満たした者としてします。

- ① 令和8年4月1日時点において、本学大学院博士後期課程学生((入学予定の者及び博士後期課程入試に出願中の者も含む)。休学中の者を除く)で標準修業年限内での修了可能な者

② 次のいずれにも該当していない者

- (1) 独立行政法人日本学術振興会の特別研究員
- (2) 本学や企業等から、又は自身が起業し、年 240 万円以上の給与及び役員報酬等の安定的な収入を得ていると認められる者
- (3) 国費外国人留学生制度による支援を受ける留学生、本国からの奨学金等の支援を受ける留学生
- (4) 国、民間団体等(以下「国等」という。)から奨学金等を受けており、以下のいずれかに該当する者
 - ① 国等により、当該奨学金等以外の資金援助を受けることが認められていない者
 - ② 国等による奨学金等の用途が、生活費の支援であり、かつ年 240 万円以上の支援を受けている者(上記(2)の収入がある場合は、それとの合算額。奨学金等が、研究費や授業料免除などの支援である場合は除く。)

(注 1)独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)の併給可能な給付型奨学金及び貸与型奨学金と研究奨励費との併給は可能

(注 2)JASSO の第一種奨学生として採用された学生については「特に優れた業績による返還免除」の対象から外れます。

4. 採用人数(令和 8 年度春季採用人数)

8名程度

5. 採用期間

令和 8 年4月から、標準修業年限内での博士後期課程修了までの間

6. 申請手続

参加希望学生及び当該指導教員を対象とした学生募集説明会(以下のページ内に開催案内を掲載予定)に参加した上で申請することが望ましい。

<https://www.kaiyodai.ac.jp/s-project/>

(1) 申請期限 令和8年1月20日(火) 10 時(日本時間)【時間厳守】

(2) 申請方法 以下①、②の様式に必要事項を記入し、申請期間内に下記提出先までメールにより提出すること。

① 申請書(申請に際し指導教員承諾済であること)(Word)

② 計画調書(Word)

【提出先】 件名を「創発的海洋人材プロジェクト申請」とし、「13.問い合わせ先」までメールにて送ること。

7. 選考方法

本プロジェクト運営委員会審査チームにより次の 2 つの審査による総合評価を行い、これを元に本プロジェクト事業統括(学長)が決定します。

(1) 書面審査 上記6. 申請書類を元に審査します。(※) 書面審査通過結果はメールにて連絡します。

(2) プレゼンテーション審査 上記6. 計画調書のプレゼンテーション及び質疑応答を元に審査します。

① 実施日時 令和8年2月20日(金)

(正式には書面審査通過者にメールにて連絡します。)

② 実施方法 10分間説明の後、10分間質疑応答(オンライン。日本語により実施)

③ プレゼンテーション資料として、上記6. (2)②計画調書を、PPT ファイル2~3枚程度にまとめた資料を「13.問い合わせ先」まで件名を「創発的海洋人材プロジェクト審査資料」とし、メールにて提出すること。

提出期限 令和8年2月12日(木)

8. 選考の観点

成績・能力、意欲・社会的志向性、研究実績、国際性、AI関連スキルおよび本学のキャリア開発・育成プログラムへの参加実績

9. 採用結果

上記7. (2)プレゼンテーション審査日から1週間以内に申請者宛メールにて通知します。

10. 採用された学生(以下「本プロジェクト学生」という。)の責務等

- ・本プロジェクト学生は、バーチャルラボ「共修の場」に所属し、本プロジェクトメンター教員による面談を定期的に受けるとともに、本プロジェクトの指定された全てのコンテンツを受講すること。
- ・研究倫理教育(APRIN e ラーニングプログラム)を本プロジェクト参加までに受講・修了していること。
- ・毎年度、研究及び本プロジェクト取組状況について、事業統括に報告すること。
- ・本プロジェクト学生の氏名等の本学及び国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)のホームページへの公表に承諾すること。
- ・本プロジェクト学生が関わった研究の論文、成果発表には本事業による支援を受けたことを明記すること
- ・JST が行う本プロジェクト学生へのモニタリング調査へ協力すること。
- ・JST が開催する他大学学生との「博士後期課程学生交流会」へ参加すること(1泊2日程度。1回程度)
- ・支援期間終了後の本プロジェクト学生のキャリアに関する追跡調査(10年以上)へ協力すること。
- ・支援期間終了後、本学指定の本プロジェクト学生のネットワーク(SNS等)に参加し、情報交換を行うこと。

11. 本プロジェクト学生への支援等に関する留意点

- ・本学の定める公的研究費の取り扱い、研究倫理及び会計に関する諸規定を遵守すること。
- ・事業統括から研究費の使用状況等を求められた場合、必要な報告をすること。
- ・海外の大学での研究を希望する場合、研究費から旅費を支援することがあります。
- ・支給された生活費相当額は、税法上雑所得として扱われます(所得税、住民税の課税の対象となり、確定申告が必要となります)ので、扶養義務者(親等)に伝えるとともに、健康保険や扶養手当等における扶養の扱いについては、扶養義務者(親等)の職場等の担当者に問い合わせること。また所得税における扶養の扱いについては、近隣の税務署へ問い合わせること。
- ・生活費相当額については、大学から直接、本プロジェクト学生の口座へ支給しますが、研究費については本プロジェクトメンター教員の承認後、大学の定める手続きにより支払いを行います。
- ・以下のいずれかに該当する場合は、本プロジェクトによる研究奨励費の支給を中止します。
 - (1)本学の規則による懲戒処分を受けるなど、本プロジェクト学生としてふさわしくない行為を行った場合。
 - (2)退学、除籍又は転学等により本学の学籍を失った場合。
 - (3)休学又は留年した場合。
 - (4)毎年度、事業統括に報告する研究及び本プロジェクト取組状況が本プロジェクト学生としてふさわしくないと判断された場合。
 - (5)申請資格又は申請要件を満たさなくなった場合。

12. 個人情報の取り扱い

申請書類に含まれる個人情報は、本学の「個人情報保護規則」に則り取扱い、本プロジェクトの業務上、必要な範囲において利用します。

13. 問い合わせ先

【申請書類に関すること】

東京海洋大学創発的海洋研究・産業人材育成支援プロジェクト支援室

doctoral-c-pj@o.kaiyodai.ac.jp (送信時は「@」を半角「@」にしてください)

(参 考)

本プロジェクト「5つのキャリア開発・育成コンテンツ」の概要及び「獲得する7つのコンピテンシー」

(1) 5つのキャリア開発・育成コンテンツ

① 海外留学・海外派遣研修

・海外研修プログラム

世界レベルの博士人材となるための国際性の涵養のため、企業、国際機関、外国政府機関での短期、中長期の多様なインターンシップ派遣プログラム(受入先は、タイ水産局、SEAFDEC、上海・ベトナムの日本からの進出企業を想定)を提供する。

派遣は、参加希望学生が作成したインターンシップ協力海外機関における研修プログラム企画書及び外国語コミュニケーション能力を勘案し決定する。

希望者に対しては本学既存制度である海外渡航支援経費の活用を促す。

② インターシップ研修

・レジデントシップ

博士後期課程の研究科共通科目である「レジデントシップ」(ジョブ型インターンシップクラス)を受講する。(海洋産業AIプロフェッショナル卓越大学院プログラム学生は、当該プログラムの「レジデントシップ」科目も可)

ジョブ型研究インターンシップ推進協議会が実施する長期間(2ヶ月以上)かつ有給の研究インターンシップに参加することにより、企業や社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成を図るとともに、先端領域を切り拓く自立した高度専門職業人や研究者として進路の可能性を広げることを目標とする。

・通常インターンシップ

キャリア支援センターが情報提供しているインターンシップ(学内掲示板、海洋大キャリアナビ「仕事研究・インターンシップ」サイト)にあるリストから、学生が希望するインターンシップ先とのマッチングを行い、インターンシップに参加するプログラム。

・企業インタビュー研修

業界や企業の実態を知り、そのニーズを把握し、就職先の選択肢拡大を図るため、企業訪問や、展示会等の機会を利用して大学等研究機関や企業等に対してインタビューを行い、レポートを作成することにより、就職先選択への視野拡大を図る。

③ トランスファラブルスキル研修

下記プログラムの履修により、専門分野間・職種間の枠を超えた学際的交流(例えば、異分野交流、異分野研究融合、「他流試合」等)を通じて、研究上のシナジー効果が発揮され、研究における視野を広げ、AIスキルや研究力(プレゼンテーション力、ディスカッション力、分析力、探求力等)や人間力等を高め、トランスファラブルなスキルを身につける。

・共修セミナー

1) 通常セミナー(原則月1回): 大学教員や企業関係者の研究推進とキャリア形成の具体例を示すことで学生自らの就業イメージの形成を支援する。

2) 合同セミナー(年2回): 学生の研究発表の場を用意し研究促進を支援する。

3) コンバージェンスキャンプ(年1回): 異分野交流と課題解決を目的としたコンバージェンスキャンプを実施する。

・URA 講座(水産海洋イノベーションオフィサ育成プログラム)

将来、大学と企業等との共同研究や、企業・地域との共創の場を自ら創出・運営できるようにするため、URA スキル標準に基づき、必要なスキル及び知識を、学生の希望するキャリアパスを勘案し提供する。

1) 基礎研修: オンライン講座により、URA スキル標準に沿った内容で、わが国の科学技術政策、産学連携スキル、研究資金の調達・管理、知財の管理・活用等を学び、研究開発成果をマネジメントする[能力を身につける]。

2) 専門研修:

- (1) 知的財産研修: 発明の基礎と手続き、研究成果の権利化、知財の管理、契約実務に関する研修(OJTを含む)を行う。
- (2) 生物多様性条約・ABS 対応研修: 国際共同研究において遺伝子資源を扱う場合に必要手続きを学び、事例を通して課題解決を学ぶ。
- (3) 外部資金獲得研修: 競争的研究資金の申請書類作成を通して、外部資金獲得に必要な知識と経験を得る。
- (4) 合意形成研修: 実際の地域フィールドワークにより、地域課題と産業課題に触れ、現地関係者を交えたグループワークを通して合意形成を行い、課題解決を目指す研究提案または社会活動提案を行う。

・アントレプレナーシップ講座「海の起業論 特論」

博士後期課程の研究科共通科目である「海洋アントレプレナー特論」を受講する。

企業の仕組み、マーケティング、人材マネジメント、財務、法務、資金調達、知財戦略、事業アイデアの創出等を学び、法人や経営等に関する知識を習得することにより、企業への就職、起業を選択肢として検討するために有用となる判断材料を得ることを目的とする。

・Python 機械学習入門

海洋産業の DX 化、スマートオーシャンやブルーエコノミーを実現するためには、デジタル技術や AI の活用が必要であり、また汎用的なトランスファブルスキルとしての有用性も高いことから、Python を用いた機械学習、ディープラーニング等に関する基礎知識を身につけ、トランスファブルスキルの一助とする。

・海洋 AI ワークショップ

博士後期課程の研究科共通科目である「海洋 AI ワークショップⅡ」を受講する。

本学海洋 AI コンソーシアムからの講師が多様な海洋分野での AI 活用事例の紹介と討論のテーマを提示し、ワールドカフェ方式によるワークショップ形式での討論を行う。

本ワークショップを通して専門分野以外の最新情報の修得、異分野の研究者とのコミュニケーション力、自身の専門分野にとどまらず広い視点から海洋諸問題をとらえる俯瞰力を養うことを目的とする。

④ キャリアパス開発研修

・キャリアパス開発ワークショップ

キャリア支援センターの特任教員が、キャリア開発の専門的な立場からワークショップを行い、学生の就職への自主性を引き出すとともに、学生間の意見交換により就職活動への積極性を養う。

・キャリアカウンセラー面談

キャリアコンサルタント等の有資格者であるキャリア支援センターの特任教員が、学生個々の将来への希望等を聞き取り、就職活動に関する具体的な支援を行う。

・キャリアパス開発面談

プロジェクトのメンター教員による面談を行い、プログラムへの取り組み状況とともに、研究と就職活動の進捗状況確認し、適宜アドバイスをを行う。

・外部就職サービスの活用

キャリア支援センターにおける民間企業運営の就職サービス、また研究職への就職を希望する場合には研究者向け就職サイトである J-RECIN を通じて、将来のキャリアパス選択に有用な情報や支援イベントを適宜、取捨選択し活用し、計画的に就職活動を行う。

⑤ 日本語コミュニケーション研修

研究分野においては優秀な留学生でも、日本語コミュニケーションが十分にできないために就職で不利な立場に立たされることもあることから、日本語学習を必要とする留学生に、将来日本社会で困らないレベルの日本語能力を身につけさせる。

(2) 獲得する7つのコンピテンシー

コンピテンシー 人材育成メニュー	職業倫理観	分析力	企画力	コミュニケーション力	研究力	国際性	Aスキル
①海外留学・海外派遣研修	○		○	○		○	
②インターシップ研修	○	○	○	○			
③トランスファラブルスキル研修	○	○	○	○	○		○
④キャリアパス開発研修	○		○		○		
⑤日本語コミュニケーション研修				○		○	

(3) キャリア開発・育成コンテンツの履修要件

	必修	選択必修	選択
①海外留学・海外派遣研修 ・海外研修プログラム			○
②インターンシップ研修 ・レジデントシップ		} ○	
・通常インターンシップ			
・企業インタビュー研修			
③トランスファラブルスキル研修 ・共修セミナー	○		
・URA 講座	○		
・アントレプレナーシップ講座	○		
・Python 機械学習入門			○
・海洋 AI ワークショップ			○
④キャリアパス開発研修 ・キャリアパス開発ワークショップ	○		
・キャリアカウンセラー面談	○		
・キャリアパス開発面談	○		
・外部就職サービスの活用			○
⑤日本語コミュニケーション研修（注）			○

（注）留学生対象

「キャリア開発・育成コンテンツ」実施スケジュール(イメージ)

実施内容	開催頻度	実施時期
①海外留学・海外派遣研修 ・海外研修プログラム	随時	随時
②インターンシップ研修		
・レジデントシップ	随時	年間
・通常インターンシップ	随時	年間
・企業インタビュー研修	1回/年以上	年間
③トランスファラブルスキル研修		
・共修セミナー	原則 1 回/月	毎月
・URA 講座	1 回/半期	4 月～9 月、 10 月～3 月
・アントレプレナーシップ講座	全 15 回/半期	10 月～3 月予定
・Python 機械学習入門	随時 (e-learning)	10 月～3 月予定
・海洋 AI ワークショップ	全 15 回、2 回/日	10 月～11 月予定
④キャリアパス開発研修		
・キャリアパス開発ワークショップ	1 回/半期	半期に 1 度
・キャリアカウンセラー面談	1 回/半期	半期に 1 度
・キャリアパス開発面談	1 回/半期	半期に 1 度
・外部就職サービスの活用	随時	随時
⑤日本語コミュニケーション研修 (注)	随時	随時

(注) 留学生対象